

いいねえ
平屋

TALO SUMMER CAMPAIGN 2010 2010年9月30日まで

田舎暮らしや山荘にも
ちょうどいいコンパクトな
平屋の2モデルを特別価格で。

専用パンフレットをご用意しています

[Campaign Model] **HI-8+LOFT**

フィンランド・ログハウスの原型のようなシンプルなフォルムの平屋モデル。収納用のロフトも付いています。

キャンペーン材一式 **1152万円** 延べ床面積 62.32㎡
参考価格 (18.85坪)
フィンランドパイン角ログ95mm 1階面積 40.5㎡
またはラミネート88mm ロフト面積 21.82㎡
テラス面積 9.0㎡



TALO東京ショールーム OPEN!

田舎暮らしやリゾートエリアの建築もおまかせください
東京都世田谷区
成城2-36-17
☎03-5494-5922
営業時間/10:00~18:00
定休日/年中無休
文通/小田急線「成城学園前」駅より徒歩3分

Event Information

9月中旬 **TALOログビレッジ 秋祭り** (千葉県富津市)
●田舎暮らしイベント開催!

10月中旬 **セルフビルドスクール** (静岡県浜松市)
●ログハウスの組立を体験!

株式会社 **TALOインターナショナル**

本社/ TALO東京ショールーム
〒157-0066 東京都世田谷区成城2-36-17 TEL:03-5494-5922
TALO関西展示場 TEL:079-553-8777
TALOログビレッジ千葉 TEL:0439-80-5311

TALO

全国13カ所の展示場と代理店ネットワーク

最新情報はインターネットで <http://www.talo.co.jp>

川釣り

近くの川でハヤ釣りを楽しむ。普段は学校や部活動で忙しい子どもたちも、豊かな自然環境があれば自分たちでのびのび遊び始めるのだ。

五右衛門風呂

お風呂は五右衛門風呂だ。現在はあまり薪では沸かさず、お湯を張っている。

ピザづくり体験

食事は宿泊者も一緒に作る。この日は子どもたちの好きなピザを、生地からこねてつくっていた。トッピングは自分たちの好きなものを好きにだけ!

夕食

立石さん一家 宿泊しての感想
「のんびりとした時間の流れはやはりいいですね。どの料理もすごくおいしかった。民泊のお母さんの人柄に癒やされました」と立石為之さん(49歳) 次男の隼くん(11歳)と長女の愛ちゃん(8歳)も大満足だった様子で、「また来たい!」と口を揃えた。

農村民泊の夕食は、地元で穫れる食材を使ったもの。決して豪華ではないが、まさに「オフクロの味」だ。

龍泉亭

☎0978-44-4863
宇佐市安心院町上内河野509

「お客さんから安心院のいいところを再認識させられることもあります。いろんな人との出会いがとても楽しいです」と矢野英子さん(74歳)。

「百年乃家」ときえだ

☎0978-44-0811
宇佐市安心院町且尾206

料理にも空間にも季節感を第一に。お客さんとの一期一会を大切にしています」と時枝美佐子さん(57歳)。

ほかにもある! 個性的な農家民宿

地域内に40件以上の農家民宿がある安心院。個性的な3件を紹介しよう。

「キッチン・ガーデン」サトウ

☎0978-44-4051
宇佐市安心院町大220-2

「横浜から移住して13年。英語もOKですよ! ゆっくりくつろいでください」と佐藤陽子さん(右・68歳)。左は安心院町グリーンツーリズム事務局の小金さん。

農村民泊に集まる理由は「本物の体験」にあり

「普段できない体験、ゆっくり流れる時間、料理もすごくおいしい」と立石さん一家。

年間 **6500人**が民泊に訪れる町

一番手軽な田舎体験

大分県安心院町
あじむまち

宇佐市は、平成17年に3つの町が合併してできた新しい市。海も高山もある人口6万人ほどの市だが、安心院町は市内陸部にあり農業が盛んな地域。

農村民泊を体験しよう!

農業が盛んな大分県宇佐市安心院町は、農村の各家庭に泊まり、田舎暮らしを体験する農村民泊に積極的に取り組んできた先進地である。年間6500人が訪れるこの地域の魅力は何なのだろうか?

文・写真/樋渡新一

体験で人気の田舎
▶002

体験した宿

舟板昔ばなしの家

☎0978-44-4663 大分県宇佐市安心院町板99 「いろんな人に出会えるのが楽しいです」と中山ミヤ子さん。

体験した人

田舎暮らしを体験する。自分たちで収穫した野菜を使った料理の味は格別。

子どもも大人も夢中宿主とのふれあいが楽しみ

田舎の雰囲気と人との触れ合いを求め、人気なのが安心院町。佐市安心院町の農村民泊だ。北九州市から来た立石為之さん(49歳)は「お母さんの人柄が何より素晴らしい」と話す。一緒に来た子どもたちは、魚釣りをしたり、ピザを生地からつくったりと、体験メニューを楽しんでいる様子。ご飯の用意を手伝うのも遊びの延長のように思えるのか、じつに楽しそう。

じつは今回の滞在は、長男の凌くん(13歳)からの提案だった。以前学校の農業体験で安心院に宿泊したときの楽しさや、手づくりの鶏飯の味を家族にも味わわせてあげたいと思ったのだと

安心院はこんなところだ

安心院町は日本で最初に農村民泊を始めた地域として有名。現在は約40件の受け入れ農家がある。利用者はなんと年間6500人。中国、韓国からも視察に訪れる。「都会とは違うゆったりした時間を体験できるので、のんびりと過ごしたい人にはぴったりですよ」とNPO安心院町グリーンツーリズム研究会 植田淳子さん(30歳)。

か。田舎風景を懐かしむ大人だけでなく、子どもたちも虜にする民泊。田舎暮らしを体験できる一番手軽な方法だ。

軒先にはタマネギが。こんな農家の風景のなかに身を置くこと自体が楽しみのひとつ。